

教職員・院生版生協だより

No. 282

2009 年 3 月号

発行 名大生協理事会

編集 名大生協教職員委員会

☎ 学内線 7540, 学外線 781-1111

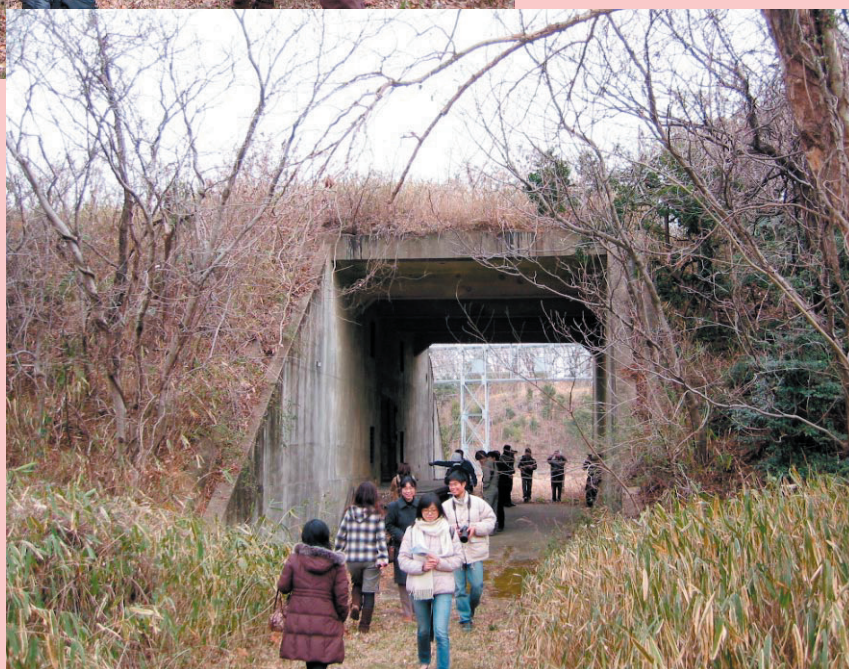
かけはし

今も大学内に残る戦争の遺構



←弾薬などの原料を
保管してあった原
料置き場

砲弾、銃弾などを保
管していた第三火薬
庫。トンネルの向こ
うに見えるのは太陽
風観測のアンテナ→



名大生協のホームページ(URL) <http://www.nucoop.jp/>
教職員委員会への e-mail あて先 kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp

も く じ

ひとりごと「あっぱれ村上春樹」	3
-----------------	---

【報告】

忘れられない命の希望の花	4
8月7日豊川海軍工廠での空爆で	5
冬の組合員交流企画の報告	6
陶器と酒の街をゆく	7
教職員委員会活動日誌	9

【記事】

東山キャンパスおよびその周辺のゾウムシ⑪

「路傍の雑草にひそむゾウムシその5」	8
--------------------	---

新フィールドノート（108+1）

「開聞岳その後」	10
----------	----

魔言

「役人」「巡査も人の子」「小寺の小僧」「正月のサクランボ」	12
-------------------------------	----

ある団塊世代の読書ノート⑦「文章の書き方」	14
-----------------------	----

ニュースに一喝！

「自分の頭で考える」「また大相撲大麻汚染」「中川さん一体調管理」「無神経」	16
---------------------------------------	----

ランニングノート（5）

「冬はかぜとの戦い」	18
------------	----

かけはしの輪	21
--------	----

アンケート・クイズ解答用紙	20
---------------	----

CO-OP QUIZ < Logic >	裏表紙
----------------------	-----

ひとりごと

あっぱれ村上春樹

2月16日付けのニュースで最も合点がいったのはエルサレム賞授賞式における村上春樹氏のスピーチだ。

エルサレム賞はイスラエルで最高の文学賞であり、2年に1名、「社会における個人の自由」に貢献した文学者に贈られる。

受賞者の中には、バートランド・ラッセル、ホルヘ・ルイス・ボルヘス、ミラン・クンデラ、アイザック・ミラーなど著名な知識人が並ぶ。欧米言語以外の作家の受賞は村上氏が初めてである。

村上春樹氏は授賞式のスピーチで、イスラエルによるガザの人々への犯行を鋭く批判した。イスラエルのガザ攻撃では多くの非武装市民を含む千人以上が命を落とした。氏が授賞に來ることで、圧倒的な軍事力を使う政策を支持する印象を与えかねないと思つたが、欠席して何も言わないより話すことを選んだ。

以下は新聞報道された氏のスピーチからの抜粋である。

私が小説を書くとき常に心にとめてゐるのは、高くて硬い壁と、それにぶつかつて壊れる卵のことだ。どちらが正しいかは歴史が決めるにしても、私は常に卵の側に立つ。壁の側に立つ小説家に何の価値があるだろう

高い壁とは戦車だったり口ケット弾、白リン弾だったりする。卵は非武装の民間人で、押しつぶされ、撃たれる。

さらに深い意味がある。わたしたち一人一人は卵であり、壊れやすい殻に入つた独自の精神を持ち、壁に直面している。壁の名前は、制度である。制度は私たちを守るはずのものが、時に自己増殖してわたしたちを殺し、わたしたちに他者を冷酷かつ効果的、組織的に殺させる。壁はあまりに高く、強大に見えてわたしたちは希望を失ひがちだ。しかし、わたしたち一人一人は、制度にはない、生きた精神を持ってゐる。制度が私たちを利用し、増殖するのを許してはならない。制度がわたしたちを作つたのではなく、わたしたちが制度をつくつたのだ。(2月16日中日新聞夕刊から引用)

私は昨年末からガザで起きている戦争に強い関心を持つてゐた。ガザ地区から発射された口ケット弾1発に対して、国連が運営する学校施設に逃げ込んだ市民にまで銃弾を浴びせ、人間を体の中から燃えさせて殺す残酷な白リン弾を使用するなど人道的にも黙過できない過剰かつ悪辣な「反撃」にてたイスラエル軍の、傍若無人ぶりは一体何なんだろう!! 私には到底理解できない。

かつてナチスドイツによって引き起こされた人種撲滅という最大の暴力を経験し、シンドラーや杉浦千畝によって「命の尊さ」を身をもつて世界に知らしめたイスラエルの人々が、今圧倒的な軍事力で非武装の市民を巻き込んだ殺戮を繰り返している。最近の選挙では右派のリク

ドと極右の「わが家イスラエル」が躍進して過半数を占めることとなり、ますます軍事優先で先鋭化するイスラエルの国民は、かつて暴力によって撲滅されようとした歴史を忘れ、今ガザでパレスチナ人撲滅を進めている。ガザへの攻撃はまだ続いている(2月23日現在)。多くの怪我人は葉のない病院で・・・この病院さえも攻撃の標的になる・・・治療を受けることもできず、薬もない状況で、命はとりとめても大きな障害を背負つて生きていかなければならないだろうに。生活に必要なあらゆるものが破壊され、ライフラインはすでに寸断されている。このようなところで傷付き、親を失つた子供たちはどうやって生きろというのだろうか。ただ茫然と焦げ臭いガレキの街にたたずみ、国連の僅かな支援物資だけが頼りの市民たちは、自分で生活を確立することはもはや不可能だ。その僅かな人道支援さえも武装勢力の介助になると拒むイスラエルによって封鎖されている。瓦礫の下に放置された死体は数えられない。病院に薬はない。ライフラインも破壊され、食料も満足に入らない。これでどうやって生き伸びろというのか!!

これが今のガザの姿なのだ。ガザの現実を知る者にとつて、村上春樹氏の行動と発言は大きな励ましとなった。そうだと。私たちがガザの市民を救わずして誰が救えるであろうか!!

イスラエルの国民に、抗議し

ようではないか!

日本はイスラエルの人々に最も信頼されている。杉浦千畝氏の貢献も大きい。敦賀や神戸でユダヤ人をかくまつた多くの日本人の善意を、彼らは語り継いできた。昭和15年、ポーランドからリトアニアに逃げ延びたユダヤ人に、外務省の方針に逆らつて発給したビザは2139枚。それぞれ家族があるので、シベリア鉄道で逃げ延びたユダヤ人は数千人と推定される。神戸に一時滞在したユダヤ人については妹尾河童氏の「少年H」でその記述が垣間見られる。日本中が戦争の熱病に置かれる直前の、奇跡の人道支援だった。それゆゑ、日本に対するイスラエルの信望は厚い。

だからこそ、村上春樹氏の今回の行動は大きな力になる。イスラエルにも非暴力を訴える人々がいる。彼らと連携し、暴力を伴わない解決を、粘り強く勧める日本人になりたい。

これが私流の愛国心なのだ。以下に私たちができる支援の窓口を紹介しします。

■パレスチナ子供のキャンペーンガザ緊急支援活動ご協力をお願い
<http://ccp-ngo.jp/bookin-gaza.html>
■JVC「爆撃を受けたパレスチナ・ガザ地区への緊急医療支援を開始します」
<http://www.ngo-jvc.net/jp/projects/palestine/200812gaza.html>
■ユニセフガザ人道支援緊急募金
<http://www.unicef.or.jp/kinkyu/gaza/2009.htm>

豊川海軍工廠跡地見学ツアーの報告

忘れられない命の希望の花

名古屋大学生協留学生委員会 孫利偉

2009年2月22日、天気は曇りのち雨です。僕は名大の河合先生とほか12名の方と豊川海軍工廠の跡地を見学しました。天気はそんなによくないけど、みんなと一緒にとても充実、かつ有意義な一日を過ごしました。

豊川海軍工廠は1939年に今の豊川市役所一帯にできました。工廠では日中戦争、太平洋戦争遂行のため最盛時7万とも8万とも言われる人々が銃や弾薬生産に従事しました。1945年8月7日に米軍機の爆撃により、幼い学徒を含む2700名近い犠牲者がたといわれています。1945年10

月の解散で豊川海軍工廠はその短い命を終えました。豊川海軍工廠は厳重な軍管理下で極端な機密のベールに包まれていたことと、8月6日の広島、8月9日の長崎への原爆投下に挟まれていること等から豊川海軍工廠の全貌とその空襲による悲劇はあまり知られていませんでした。

（「豊川海軍工廠跡地保存をすすめる会入会のご案内」から引用）

戦争自体は残酷であり、悲しいことだと思えます。しかし、一方でこんなにたくさん犠牲者が出てきたのに、この真実を市民のみなさんに知らせないこと、知らせたくないことはもつと残酷だと思えます。8月6日の広島での原爆投下を一面に取り上げられた新聞には、「豊川付近に爆撃、若干の被害が有った模様」とのみ書かれていました。これは戦争より恐ろしい。空襲で亡くなった人々がこの世を去ったところのなかで想像してください。しかし、想像しても分からないかもしれません。当時の経験者の話によると、人の手や足



広大な森の中に当時の姿のまま眠る海軍工廠



工廠跡地に人知れず咲く「命の花」

はあつちこつちに散らばっていました。死体は山のように出てきて、埋める場所もちゃんと準備できない状態でした。そして、人をなめるように襲ってきた戦闘機の銃弾は次々と人に当たりました。250キロの巨大爆弾の威力、また2500発の爆弾から飛ばされた破片による壁の上の穴。当時の人々はきつと泣きながら逃げ回ってきたではないでしょうか。人間が生きることすらできないことは大変残念なことだと思えます。

しかし、冬なのに見学するときに跡地のところどころに花が咲いていました。曇りの天気であるにもかかわらずその花は空に向けて生き生き咲いています。これは命の花だと思います。

この花はまるでなくなつた人々のように私たちに何かを教えていると思えます。この広いところで亡くなった人々はこの花を通じて今生きているみなさんに命の希望を伝えているのではないのでしょうか。この命の花はいままで多くの人々に知られていなくて、まるで忘れられた花になつたと思えます。しかし、今日の見学を通じて、この花を全日本、そして全世界の人々に知ってほしい。この花を通じて命の尊さと平和の大切さ全世界に知ってほしい。だから、この花を残してほしい。この跡地を残してほしい。

全世界が永遠に平和でありますように、ここから祈っております。



豊川海軍工廠跡地（名大太陽地球環境研究所内）

ピースムービー第三回「早咲きの花」

8月7日豊川海軍工廠での空襲で

全学技術センター 河合利秀

平和憲章委員会の取り組みとしてスタートしたピースムービーの第三回目は、私たち名古屋大学の構成員にとって最も関係の深い作品を上映しました。

豊川のSTE研究所の敷地が豊川海軍工廠の遺構であることは「かけはし」で何度か紹介しました。

映画「早咲きの花」は、その

豊川海軍工廠爆撃で命を散らした学徒動員の少年の悲劇にスポットを当てたものです。

あらずし

この物語は海外在住の女流写真家シュナイダー植松美奈子（主演・浅丘ルリ子）が眼科医から失明を告げられるところから始まる。彼女が最後に目に焼き付け



ようとしたのは、昭和20年8月7日の忌まわしい出来事・・・最愛の兄を奪った豊川海軍工廠の爆撃とそこにいたる思い出だった。

話しは一気に戦時中の豊橋のある医者の家族に飛ぶ。戦争中にも関わらず、子供たちはの

びのびと過ごし、みどりなす大地は美しい。

しかし徐々に戦争の悲惨な現実がこの家族や町の人々にのしかかってくる。そして運命の8月7日。戦争の悲惨な描写は息をのみ、我々の目の前で500ポンド爆弾が次々に破裂し、多くの命が木の葉のように吹き飛ばされていく・・・

愛知県豊橋市制100周年を記念して製作されたこの映画は監督に菅原浩志氏を向かえ、忘れてはならない豊橋・豊川の歴史を刻んだものだ。

この作品は豊橋の人々の過去と現代を結びつけた。多くの市民がエキストラとして参加し、歴史の語り部となった。

この映画のDVDを平和憲章委員会が保有しています。貸し出しもしていますので、見てみたい方は名古屋大学職員組合（内4913）を通して申し込んでください。上映時間は106分です。

感想

○この映画はもう何度も見ましたが、みるたびに新しい発見があり、この映画を作った人々の平和への思いが伝わってきます。浅丘ルリ子さんの美しさにも驚かされますが、戦時中の子供

たちの活発でおおらかな生活と自然の美しさです。美しい自然と対比をなす戦争の暴力。何度みても胸が痛みます。そして今同じようなことが世界のどこかでおきていることに、私たちはもっと関心を持たなければならぬと思います。（河合）

○現在と過去をとり結び、豊橋・豊川の記憶が、とても迫ってくるように感じました。豊川海軍工廠で実際に少年たちが働き、爆撃のもとで死んでいったのかとてもイメージがわきました。とてもいい映画でした。（K）

○豊川海軍工廠には以前行きましたが、映画の中で13才にしかならない子どもまでもが、兵器づくりに動員されるのを見て、あらためて心が痛くなりました。映画上映後の感想交流会では、知らない歴史の話を聞けて、まとめられませんが、勉強になりました。もっと多くの学生とも話せるといいと思いました。（H）

○中学生13才の若さで（命を落とす姿を）映像でリアルに見るのはとてもつらい。いたずらざかりで、けんかをしたり、島の探検をしたりする少年たちが死んでいく戦争のひどさが伝わる作品でした。（O）

冬の組合員交流企画の報告

愛の助け合い献血活動

12月9日(火)北部生協フェア献血結果報告

昼からの雨という天候でしたが、受付59名内、献血者は42名でした。

今回の特徴は季節柄献血できない人が多い時期でかつ、雨天という悪条件にもかかわらず59名が応じていただけたことと、初回者が21名と35.6%と多かったことです。献血者のお話を聞いていると当日献血をしていたので、との方が多くいます。事前に知っていた方は店舗の宣伝のようです(店舗に置いていたチラシを持っていた方もいらっしゃいました)。

今年は生協が献血を開始して20年になります。早目の準備・宣伝をして協力を呼びかけたいと思います。

12月9日(火)献血結果

受付者数:59名(内、初回者21名)

200ml:2名(同 1名)

400ml:40名(同 12名)

献血者数:42名(同 13名)

200ml換算:82単位

ご協力ありがとうございました。(松岡)

映画「博士の愛した数式」上映会

12月10日(水)17時30分から、カフェフロントにて、映画「博士の愛した数式」の上映会を開催しました。宣伝不足によるものか、映画鑑賞者は数名でしたが、作品はすばらしく、とても心温まるものでした。

ダーツバー&赤ちょうちん

12月11日ゆ〜どんにて、恒例の赤ちょうちんを開催しました。今回はダーツゲームも設置したダーツバーの雰囲気も楽しめたのではないのでしょうか。昨年のほぼ4倍の利用があり大変盛り上がった企画となりました。今回初めて委員会も参加者となり生協の職員によるお客様から注文を受け、出食し、下膳するといったフルサービスで行われました。食堂店舗での宣伝と、レジにて前売りチケットの販売も行うなど、万全の準備で望みました。その結果、利用者は39名となり、潜在的に夜ゆっくりとお酒の飲

めるしかも安い店が学内にあることを望む組合員がいるということを改めて感じさせられました。参加され方々には楽しいひとときになったかと思います。47,000円の利用があり、収益の14,310円をユニセフに募金いたしました。

Fエース産直リングは47箱販売

めいきん生協と産消提携している長野県下伊那郡松川町の省農薬Fエースリングは今年も好評で、少し傷のあるB級品を35箱と傷の少ないAB級品12箱、計47箱を販売しました。4,600円をユニセフに募金しました。

うたごえ喫茶に12名

うたごえ喫茶を12月8日(火)18時~20時、IBカフェにて名古屋大学職員合唱団の協力を得て開催しました。今回で3回目となります。下手でも何でも、声を出して歌うことは、大きな呼吸や横隔膜の運動など、メタボ対策にもバッチリ!!ということで、うたごえ喫茶はそんな気持ちよさをみなさんに味わってもらおうと企画しています。

今回は参加者が少なかったのですが、参加した人がその後合唱団に加わってくれたという大きな成果もありました。今回見逃してしまったと思われたかた、次回は6月(予定)ですので、「かけはし」をお見逃しなく。

今回の合唱団の演奏曲目は、混声合唱のための唱歌メドレー「ふるさとの四季」から、ふるさと・もみじ・冬景色、無伴奏混声四部合唱曲旅愁、クリスマスソングから赤鼻のトナカイ、混声四部合唱鳥の歌(カタロニア民謡)でした。

職員合唱団の皆様、ご協力ありがとうございました。



陶器と酒の街をゆく

1月31日晴れ。委員会企画「陶芸教室と酒蔵見学」の日である。朝9時名古屋大学博物館前に参加者5名が集合した。春一番を思わせるような、冷たく強い風の日となった。早速車に乗り込み、陶器の街土岐市を目指す。

陶磁器を総称して瀬戸物といわれるくらい、昔から陶器の街として瀬戸が有名である。それは良質な陶土瀬戸層群が瀬戸市から北の方に分布していて、瀬戸焼きの歴史は平安時代にもさ



どんぶり会館にて陶芸を学ぶ

かのぼる。鎌倉時代には日本六古窯として名を連ねるくらいに発展した。今日訪れる土岐は美濃焼と呼ばれ、戦国時代に戦乱を逃れてきた瀬戸の陶人が良質な土岐口陶土層を利用して焼き物を始め、世の中が平安を取り戻した桃山時代に一大窯業地として発展してきた街である。

土岐インターを降りて車で15分くらい行くと、美濃焼を展示販売しているどんぶりを逆さまに伏せたような形をした道の駅「どんぶり会館」が今日の陶芸の場所である。

参加者は希望により、絵付け、ロクロ、手びねりとに別れ思い思いの作品の製作に取りかかった。絵付けは大きな皿で800円、ロクロと手びねりは各2,500円となっている。約1時間くらいでそれぞれの作品が完成し、後は焼き上がりの1ヶ月後を楽しく待つだけである。

どんぶり会館の2階で昼食を取り、午後からは土岐市内にある千古乃岩酒造に向かう。土岐の酒造は古くはないが、千古乃岩酒造が創業100年になる。数件

あった酒蔵も今は千古乃岩とあと1軒の計2軒となってしまうそうである。ちょうど明日が酒蔵開放日とのことで、その準備の最中もあつたよううだ。我々の到着を待っていてくれて、早速酒造りの工程を見学させていただいた。酒米の精米率(70%、60%、35%)を変えた幾種類のお米を手で握って感触を見てくださいと言われたが、なかなかその違いを手の

ひらで感じることは難しかった。次に麴を作る30数度に保った麴室に入って説明を聞く、蒸米を27度から55時間かけて46度まで上げて完成させる。雑味の原因となるアミノ酸が作られる35℃37度をいかに早く通り過ぎるかが大事だと言われた。最高温度となった麴を奥歯でかむと甘い栗の味がするとわれ、甘い麴を味わった。お酒の発酵時期の違いについても順番に大きな樽の上から見せていただいたり、味わわせていただいた。朝晩2回攪拌するという權(かい)を使つての攪拌体験もした。仕込み水を地下からくみ取つていて、樽にたまつたところを見たが水



千古乃岩酒造の店先にて試飲を楽しむ参加者

が青いということを実感した。試飲用にと数種類のお酒を用意していただき、店の中のストーブを囲んで丸く座つてゆっくり時間が過ぎるのも忘れて味わった。お孫さんが酒の肴を次から次へと持つてきてくれて、酒漬けにしたスルメ焼きやウリ、大根の粕漬けなど楽しい酒盛りとなった。千古乃岩酒造ではオリジナルラベルのお酒も1本から作つていただけるので、何かの記念の際には頼んでみるのも手だ。70周年のオリジナルもできるといいかな。

ほろ酔い気分の参加者を乗せた車は千古乃岩酒造を後に帰路に着いた。

東山キャンパスおよびその周辺のゾウムシ⑪

路傍の雑草にひそむゾウムシその5

理学研究科 井上晶次



写真1 イヌガラシのアオバネサルゾウムシ

そろそろ春になり虫を見るのが出来るようになります。今年は3月5日が「啓蟄」です。ね、「啓蟄は冬眠していた虫が出てくる頃」ということですが、この虫とは昆虫だけでなく、小さな生き物、ダンゴムシ、ミミズなども含まれているのでしょうか。私たちの目に付くのはモンシロチョウでしょう。「おや、モンシロチョウだ」と菜の花とともに春を感じる方も多いと思います。近年、地球温暖化が進行し、生物の生息状況も昔と変化してきています。さて、皆さんは今年モンシロチョウを見たでしょうか。私の所属しているなごや昆虫同好会では毎年4月の例会でチョウの初見を参加者が報告

し、そのデータは毎年機関紙に報告されています。名古屋市の所見について20年前と比較してみましよう。1984年3月23日、1985年3月18日、1986年3月8日、近年の記録は2005年3月21日、2006年3月6日、2007年2月16日となっています。初見の場所が定点ではないので科学的とはいえませんが、少し早くなってきたようにも思えます。

●イヌガラシのゾウムシ

さてゾウムシの話に戻すと、ゾウムシで春早くでてくるのはナズナにつくダイコンサルゾウムシであることはすでに紹介しました。その次に出てくるのが、アオバネサルゾウムシとミドリサルゾウムシです。アオバネは明るい光の下で見ると上翅が濃い青色です。緑は少し金属光沢のある緑から紺色をしています。いずれも農学部圃場の隅に生えているイヌガラシから採集できます。標本のラベルを見ると、ミドリサルゾウムシは「2000年4月8日・平和公園」、アオバネサルゾウムシは「2006年5月1日・平和公園」が早い記録です。保育社の原色昆虫図鑑ではアオバネサルゾウムシは

「イヌガラシに多い」、ミドリサルゾウムシは「イヌガラシにいるが少ない」となっています。確かに東山キャンパスでもアオバネサルゾウムシはそのつもりで探せば毎年観察することは出来ますが、ミドリサルゾウムシはかなり探さないと観察できません。変な話かもしれませんが、これらのゾウムシは「いるところにはいるが、いないところにはいない」というのが私の感想です。また、イヌガラシが平地の畑の隅に生えているような植物なので逆に採集する機会が少ないのが採集例の少ない理由ではないかと思っています。



写真2 左アオバネサルゾウムシ 3.5mm
右ミドリサルゾウムシ 2.3mm



写真3 イノコズチのマダラヒメゾウムシ

●イノコズチのゾウムシ
イノコズチにはヒナタイノコズチとヒカゲイノコズチがあるとのこと。私には区別が出来ません、いずれにせよ秋に実った種は衣服にくっつきわずらわしい植物です。
東山キャンパスの北側に道路を隔てて園山宿舎があります。そこは以前1戸建の宿舎があり、私が知ったときはすでに住む人もなく無人のようでした。1985年6月にそこのある家の庭にイノコズチがありマダラヒメゾウムシを始めて採集しました。その後そこには現在の園山宿舎が建設されイノコズチはなくなりしました。しばらくして2001年6月に農学部園場の東隅に生えているイノコズチからも採集し、近年も継続して観察することが出来ます。イノコズチがあればどこにでも生息し



写真4 マダラヒメゾウムシ 3.5mm

●今後の予定
ゾウムシの話はこの号で11回目となりました。その間に、オサゾウムシ科5種、ゾウムシ科49種、イネゾウムシ科1種あわせて55種のゾウムシの仲間を紹介しました。49種のゾウムシ科の中で草を利用して25種、伐採された材を利用するゾウムシ7種、樹木利用10種、落ち葉腐葉土を利用して7種、これ7種を紹介してきました。これは私が東山キャンパス、平和公園で採集しているゾウムシの約半数です。もう少しゾウムシの話にお付き合いください。

ているわけではなく、平和公園でも限られた場所のイノコズチからしか採集できません。写真4のように上翅にまだらの模様があるヒメゾウムシの仲間です。

教職員委員会活動日誌（2009年1～2月）

月 日	事 項	場 所
1月16日(金)	平和憲章委員会	組合書記局
16日(金)	総代会プロジェクト	ゆ〜どん
19日(月)	1月度理事会	フレンドリィ南部
26日(月)	1月度教職員委員会	IBカフェ
27日(火)	東海地域センター教職委員会	菱信ビル4階会議室
28日(水)	東海地域センター地域部会	東海会館
29日(木)	第16回名古屋大学・生協懇談会	グリーンサロン東山
30日(金)	平和憲章委員会	組合書記局
31日(土)	陶芸教室と酒蔵見学	どんぶり会館&千古乃岩酒造
2月5日(木)	映画「西部戦線異状なし」と平和の懇談会	グリーンサロン東山
6日(金)	総代会プロジェクト	ゆ〜どん
13日(金)	平和憲章委員会	組合書記局
14日(土)	東海地域センター理事会	東海会館
16日(月)	平和憲章エッセイ審査委員会	南部食堂ホール
16日(月)	2月度理事会	南部食堂ホール
19日(木)	PeaceMovie「早咲きの花」	IB電子情報館013講義室
22日(日)	豊川海軍工廠跡地見学ツアー	太陽地球環境研究所
27日(金)	総代会プロジェクト	ゆ〜どん
28-3/1日	2009年度上期教職員委員会方針合宿	内海「はしもと」

新フィールド・ノート — その108 +1 — 開聞岳その後

広木詔三

今日、二月十七日。久しぶりにメールを開く。

箕浦さんから、かけはし原稿の依頼が届いている。日付は十四日である。一瞬、あせった。この三週間ほど、学生の試験とレポートの採点に明け暮れていたのである。その数は、なんと九百八十もあるのだ。今日あたり箕浦さんから催促があるかと予想はしていたのだが、十四日とは予想以上に早い。あさつての十九日が採点の締め切り日なので、それまで待つてくれるようにメールでお願いした。

新フィールド・ノートは、前回の百八話で終わるつもりだったが、尻切れトンぼになってしまった。桜島や開聞岳に行くことになったいきさつも、肝心のその後の経過にも触れずじまいだった。

前回、締め切り間際に原稿の

有無の問い合わせがあった。すぐに書き始めたが、開聞岳の話にさしかかったところで夕方の六時になってしまった。字数をそろえて原稿を送った。言い訳はこれくらいにしよう。

さて、話は開聞駅に戻る。

無人駅のプラットホームの前には、小さな菜の花畑がある。明るい春の日差しを受けて、ナノハナの黄色い花が咲いている。よく見ると、花のあいだを蜜蜂が飛び交っている。ナノハナの花を間近で見ると初めてだが、蜜蜂を見たのも初めてのような気がした。注意が向くと、意外と数が多いのに気づいた。寺田寅彦を見習って、数を数えようかとも考えたがそれは止めた。

どのくらいの時間が経過しただろうか、駅に人が現れはじめた。そのうち電車が到着して、我々はそれに乗り、指宿方面に

向かった。

来たときと同じように、指宿枕崎線は山川駅で乗り換えだ。山川駅からは鹿児島中央駅まで直行だ。指宿を過ぎて、三つ目に薩摩今和泉（さつまいまいずみ）という駅がある。そこには、今（といっても去年のことだが）、NHKの朝のドラマで話題になっている篤姫の実家があるそうだし、しかし、なにしろ強行軍なので、観光をしている暇はない。

その日は鹿児島市内に泊まる。まだ明るいうちから街なかをうろつく。暗くなりかけた頃に一軒の居酒屋に入る。店の主人の勧めで、近くの島で醸成したという焼酎を注文する。刺身にはやはりあまい醤油がついてくる。だが焼酎は水のようなものである。ためしに水を飲んでみたが、やはり水とは違うようだ。

話を先に急ごう。翌日は鹿児島中央から特急で博多に向かう。博多の宿に荷物を預けたのち、日本生態学会の懇親会場に赴く。講演要旨を受け取り、必要最小限の情報を得る。例えば、三宅島の噴火後の植生の状況とかのポスター発表を見る。

懇親会では、名古屋大学を卒業した水谷君が現れた。ミズナラのどんぐりの豊凶に関する最新のデータをもっているという。どんぐりの豊凶と熊の出没との関係はまだ十分には明らかにされていない。その福井県におけるデータはまだ決定的とは言えないが、ミズナラの凶作がブナの凶作と重なってクマの行動に影響を及ぼした可能性を示唆していた。その後、印刷された論文が送られてきた。

懇親会の後、小林君の他に、環境学研究科の富田君と、もう一人農学部的女子学生の四人で博多駅裏の居酒屋に繰り出した。そこでは小林君の独壇場である。

小林君は地方の私学の工学部の出である。卒業研究で、アユの地域個体群の遺伝子解析を行っていた。大学院の入学試験で、英語の成績は悪かったが、専門の試験問題に遺伝子のPCR解析の問題が出たことが幸いして彼は合格した。

小林君が挨拶にきたとき、私は部屋に居なかった。手塚先生が、小林君に会って、すぐに実験することを勧めた。手塚先生

は、早速百万円ほどの遺伝子解析装置を購入し、小林君は入学する前の九月末から実験を始めた。シイの雑種の遺伝子解析のテーマは、手塚先生と小林君とで勝手に進めたのである。だが、このことが小林君の運命を決めたともいえる。

小林君は手先が器用で、彼の実験結果はきわめて信頼できる。遺伝子解析について無知な私が言えることではないが。

ツブラジイとスタジイが同一種か別種かは長年意見が分かれていた。別種という立場は少数派だった。私が果実の形状で十年以上も調べたが十分に明らかにすることが出来なかった。小林君の遺伝子解析の結果が出るのはかなり後のことであるが、小林君は表皮組織の構造に違いのあるのを発見した。ツブラジイの表皮組織の細胞は、一層であるが、スタジイのそれは二層なのである。これは大きな発見であった。雑種では、表皮組織が一層と二層のキメラ状になる。このことは両者が別種であることを物語っている。当時は遺伝子が万能という風潮が残ってい

て、形態学的な事実は軽視されがちであった。後に遺伝子解析の結果も別種であることが裏付けられた。

小林君の実質的な指導は手塚先生だったと言える。いや、小林君は遺伝子解析の技術を十分に会得していた。手先はきわめて器用なのである。シイの雑種の表皮組織のキメラ構造を発見したのも彼の手の器用さと観察眼のよさのなせるわざである。

問題は英語であった。彼がともに英語の論文が読めるようになるには長い年月が掛かった。修士の頃は、ほとんど毎日英語づけであった。

学位を取得して、小林君は情報学研究所にボスドクとして採用され、手先の器用さを生かして情報処理の仕事をしている。それと同時に、シイに関する研究も続け、毎年いくつかの学会で発表している。小林君の努力のおかげで、ツブラジイとスタジイの間には雑種があるらしいということがようやく認められつつある。

まだ解決していない大きな問題は、スタジイの起源にかんす

るものである。

ツブラジイとスタジイの分布には奇妙な関係のあることは、私が研究を始めるまえにすでに知られていた。両種はサンドイツチ状に分布しているのである。どういうことかと言うと、水平的にも垂直的にもスタジイがツブラジイを取り囲むように分布しているのである。

九州南部ではスタジイが優勢で、本州の中部地方ではツブラジイが分布し、関東地方や佐渡ヶ島ではまたスタジイの分布圏になる。垂直的には、海岸部ではスタジイが見られ、内陸部に入るとツブラジイに置き換わり、山頂部になるとまたスタジイに代わる。

両種がこのような分布パターンを示すに至った要因としては、人間によるスタジイの伝搬が関わっている、というのが私の仮説である。だが、証拠はない。小林君の遺伝子解析もそこまで明らかにはしていない。

そもそも伊豆諸島に分布するスタジイはどのようにして起源したのか。謎である。海流説を考えた人もいるが、あり得ない。

鳥が運ぶことも無いとは言えないが、有りそうにない。人間が運んだとしたら単純明快である。

私自身は遺伝子解析に関して素人であるが、小林君の研究を通じてずっと遺伝子解析の分野を見守ってきた。最初はよく知らなかったのが、遺伝子解析が打ち出の小槌のように思われた。ところが、実際はそうではない。対象に合った解析方法を開発しなければならぬ。解析をする前に、問題が見えていなければならぬ。やみくもに解析しても意味がないし、問題が見えていなければ解析しようとすることもない。

スタジイの起源については、アイデアはあるが、実証するのは困難である。

琉球列島にはスタジイと変種の関係にあるオキナワジイが分布している。このオキナワジイが本州に分布域を拡大してスタジイを生んだ可能性が考えられる。実証できないのが残念だ。

研究環境が整っていればとも考える。だが、若くなければだめである。情熱も必要だ。

もう時間もない。

役人

国会で高級公務員達のいわゆる「渡り」の問題が喧しい。麻生総理大臣が認めないと言っても中々額面通りにならないらしい。いきなり、余談であるが、麻生さんの「渡り」のアクセントは頭高で、なにか俳優の「渡哲也」さんのことを言っているように聞こえて仕方がなかった。

この前の日曜日の午後のワイド番組「そこまで言って委員会」で取り上げられていた。発言者の一人は役人を評して曰く、慇懃無礼、面従腹背、無知蒙昧と。少し言いすぎのようにも思えるが、実際、そう言われればそのようにも思える役人が居る。役人は決して国民のために働いているのではなく、自分たちの利益のために働いているのだと。真面目に国民に対している役人達には酷な言い方だと思いが、確かに、そういう人もいるのだらう。

審議会は隠れ蓑だというのも頷ける。自分たちが欲する結論を得るためにそういう人選をするのだと。大変な努力だと思ふ。

役人は優秀だからそれが出来る。その役人を駆使するためには、それ以上の政治家が必要なのだ。細かなことはどうでもいいから、きちんと基本線を弁えて役人を使える政治家の出現を

巡查も人の子

ちよつと古い話になる。去年の十一月のことだ。この頃のように次から次へと色々なことが起こると、僅か二三ヶ月前のことなのに遙か昔のことのように思える。それでいてと言うか、それだからと言うのか、月日の経つのが恐ろしく早いような気がする。そんな話をするとは皆さんもそうだと仰有る。もう、一月も済んでしまふ。二月も二日済んでしまった。

本題に入る。この二三年、交通事故防止のために飲酒運転を止めようというキャンペーンが行われ、罰金も恐ろしく高くなり、それなりの防止効果があった。その飲酒運転防止に関わった警視正が事もあろうに飲酒運転をして、事故を起こしていたのだ。大した事故ではなかった

切望する。結局、そういう役人を動かすのも民意、民意を得た政治家の登場が切望されるのである。自民党の〰代の首相は何れも民意を得ていない。力を発揮できるはずがない。

が、警視庁ではこの事件を重視して、飲酒運転撲滅のためにも厳正に処分しようとしていると報じられた。この、事件を起こした警官も酔いは十分醒めているだろうと思つて、翌日の勤務

小寺の小僧

今、私が住んでいるのはまさに小寺、今、小僧という身分ではないが、やっぱり、小寺の小僧というのが私に似合った呼び方かも知れないと思う。

子供の頃、まさに小僧と言うに相応しい頃、終戦後の混乱期だった、その頃は、大寺に住んでいた。大寺の小僧だった。朝早

のこともあり、自動車を運転したらしい。十分考えられることだ。人の中には、厳罰が当然という意見もある。それも分らないではない。

ただ、すこし冷静に考えると、同じような事故とあまりにも違う処分があったとしたら、それは問題ではないか。いわゆる「法の下の平等」とどう関わるのだろうか。見せしめとか、一罰百戒という事とも考え合わせなければならぬのだから、当人の将来のことも考えてやらなければいけないような気がする。甘いだろうか。

く朝課の当番と、典座の当番があった。一日おきだった。小学校に行く前からの事だった。掃除が大変だった。冬などどうしていたのか、余り記憶ははつきりしてはいないが、今思えば、懐かしくさえある。私と、兄だけのことだ。後の兄弟はまだ小さかった。

その頃父親は、今考えてみれ

ば三十歳代後半の元気盛りの頃だ。よく言ったものだ。「それは、小寺の小僧のやることだ」と。具体的なことはみんな忘れたが、この言葉だけを覚えていて。

何かの拍子にこんな事が意識に登った。きつかけは何だったか忘れた。今昔物語集にこんな「こでらのこぞう」の話がある。希代の碩学、妙法蓮華經釈文という著作のある学僧である山科寺の仲算という坊さんがいた。一條摂政の世尊寺での法会の折、山門・寺門・南都の学僧が招待された。談笑中に、その景色を愛でて仲算は「此の殿の木立は他とは違つていいなあ」と。傍らにいた木寺の基増という坊さん、それを聞きとがめて「奈良の法師は物を知らないんだな。『木立』と言うべきで、『木立』などとは、…」と爪弾きをした(注)。仲算これを聞いて。「やつ、これは、間違いましたな、そうすれば、貴僧は『コデラのコゾウ』ということになりますな」とやつた。一同大笑い。摂政はその笑い声を聞きつけ何事かと問うた。そのわけを聞いて、基増は毘にはまったな、と言つたので、益々大笑い。つまらぬ物咎めをしたお陰で、「小寺の小僧」というあだ名が付いてしまつ

た、という話し。平安時代からこういう言葉があつたのがおもしろかつた。

今、「小僧」などと言えば差別用語呼ばわりされて使いにくい。しかし、以前は平気で使われた。中学を卒業したばかりの子供達が、大勢集団就職で町の工場や、商店などにやつてきたとき、人々は「小僧さん」と呼んでいた。ひとつ記憶に鮮明に残つてい

正月のサクランボ

時の経つのは早いもので、今年も一月は疾うに過ぎ、二月も十日になった。時の流れとともに記憶も薄れていく。標題のこ、正月のラジオ放送で聞いて、何てバカげたことをと思うと同時に、そうやって生計を立てている人もいるのだから、世は様々だと思つたものだ。

私は、「私の仏教」という題名で、私の考える「仏教」のことを書いていく。それで言いたいことは佛教研究の専門家からはどう言われるかは分からないが、佛教とは決してある種の偶像を建てて、それを拝んだり、それにすがつたりして助けを求める

ことがある。或る、お寺の方、住職ではなかったが、一人前の大人だったが、その人は私の所に電話をしてくる度に、「〴〵寺の小僧ですが、…」と。私がまだ未成年で文字通り小僧の頃のことだ。随分怪訝に思つた。

注 この現象は、日本語の音韻変化の中で有名な現象。「火の穂」を「ほのほ」言うのも同じ現象。(T)

ものではなく、自らが自らの拠り所であり、その「自ら」はまともな人間でなければならぬ。従つて、その自らは自然の摂理に従い、あるがままを受け入れていくものでなければならぬのだ。自然に逆らつたり、自然を改造したり、他人の意に逆らつたりすれば窮屈なばかり、出来る限り、物事の本来のあり方で、行こうとするのだ。良寛さんの、死ぬときは死ぬが良きに候である。

だから、佛教は「滅亡教」と言われるのも故無しとはしない。幸か不幸か、みんながそういう生き方をしないから滅亡を免れ

ているのかも知れない。

こう考えると、今の便利で豊かな生活は大いに自然の摂理に背いているとしか言えない。豊かで便利になつて人間が本当に幸せかどうか分からない。我々戦前派は戦中戦後の不如意を知つていればこそ現在の豊かさ、便利さを素直に喜べる。しかし、今この中で育つている人々はどうか。何か少しでも足りなくなると途端に不平不満、時にはそれがいい方向に向かうこともあろうが、現在の金融危機に発する経済的困難の中では多くが否定的だ。こんな中で、今こそチャンスと言つていても少数はいるが、自動車の減産は喜ぶべき事、電気製品が売れなくなったのもいいことだなど、とまともに言おうものなら顰蹙を買ふばかりだろう。その実、物は作りすぎだ。ゴミの多さを見れば分かる。せつせと地球温暖化に加勢しているのだ。これを機に、生活に困る人が出ないようにしつつ、節度ある生活をしていくようにしなければならぬまいと思ふのだが。差し詰め、正月のサクランボは作つていない。人には悪いがあまり賛成できない。(T)

文章の書き方

いつ頃からか文章を書くことには少々の自負を持ち、生協や職員組合などの機関誌(紙)編集の仕事ですすんで引き受けてきました。

そんなことから「文章の書き方」「記事の書き方」「文章読本」などのタイトルが目に入ると手に取ってみるのが習わしとなっています。

その中から「文は心である」から「その人の文章のありようと、その人の生きる営みとは切り離せません」(『文章の書き方』

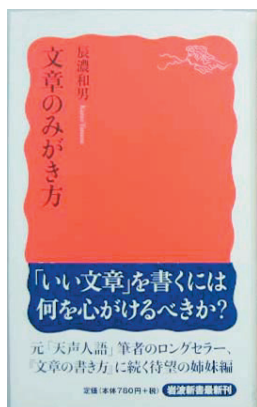
辰濃和男著)といううな説に出会うと、わたしの根拠のない自負などどこかへ吹き飛ばされそうですが、そこは図々しく今回も駄文を書かせてもらいます。

上手な文章を書くた

めには修行が必要であり、昔から名文家、作家と呼ばれる人達は、日常の努力を惜しまなかった。そうした努力のあれこれを綴ったのが『文章のみがき方』(辰濃和男著)です。以上2冊の著者は朝日新聞のコラム「天声人語」の元筆者です。

『文章の書き方』
(辰濃和男著、1994、岩波新書)

『文章のみがき方』
(辰濃和男著、2007、岩波新書)



『リンボウ先生の文章術教室』(林望著、2006、小学館文庫)

数字を表記する場合、3桁ごとにコンマを振るのは欧米の真似ごとであり、日本では4桁ごとに振るべきだ。アメリカ合衆国

「イギリスはおいしい」などのエッセイで知られる林望氏による『リンボウ先生の文章術教室』からは3つ。文字を惜しめ、文章の第一要件は「客観性」にあり、品格を保て、

「イギリスはおいしい」などのエッセイで知られる林望氏による『リンボウ先生の文章術教室』からは3つ。文字を惜しめ、文章の第一要件は「客観性」にあり、品格を保て、



『名文を書かない文章講座』(村田喜代子著、2008、朝日文庫)

の主張を受け止めました。

芥川賞作家・村田喜代子氏による『名文を書かない文章講座』は、タイトルに惹かれて手にとってみました。名文は書けなくとも、分かりやすく、書く人の個性のにじみ出た文章を書くためのアドバイスを期待したからです。いくつかヒントはもらいましたが、この本のタイトルがなぜ「名文を書かない」のか私にはよくわかりません。

わたしは元朝日新聞記者・本多勝一氏のファンです。彼の主張にはこんなものがあります。数字を表記する場合、3桁ごとにコンマを振るのは欧米の真似ごとであり、日本では4桁ごとに振るべきだ。アメリカ合衆国



『中学生からの作文技術』(本多勝一著、2004、朝日新聞社)

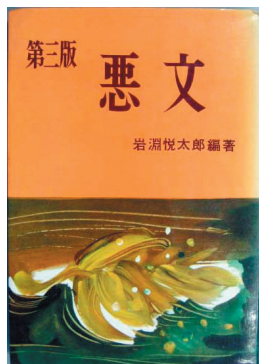


『日本語の作文技術』(本多勝一著、1982、朝日文庫)

ではなく、合州国とすべきだ。これらの主張はまったく正しいと思います。「意志が弱いからタバコはやめます」というコラムもあります。

『日本語の作文技術』(本多勝一著)は、「上手な文章、美しい文章を書くには才能が必要だ。だが(わかりやすい文章)を書くには才能は必要ない。だれでも習得できる(技術)が必要なのだ」という趣旨で、たとえば修飾の順序(「美しい水車小屋の娘」か、「水車小屋の美しい娘」か)、句点の打ち方にはどんな決まりがあるかなど、徹頭徹尾理

ある団塊世代の読書ノート (7) 柴田敏之



『悪文』（岩淵悦太郎編著、1960、日本評論社）



『理科系の作文技術』（木下是雄著、1981、中公新書）

私の本は1985年の5版ですが、現在は11版まで出ているようです。ことは日々変化しているので、新版にする必要がありますが、古くてもまったく役に立たないわけでも

次回 は知的生産の技術・発想法・資料整理法を予定しています。（しばた・としゆき「エコトピア科学研究所技術補佐員」）

『理科系の作文技術』（木下是雄著）はよく読まれています。理

初版が出たのが1999年。名大生協の招待で北京第二外国

私の本は1985年の5版ですが、現在は11版まで出ているようです。ことは日々変化しているので、新版にする必要があり

次回 は知的生産の技術・発想法・資料整理法を予定しています。（しばた・としゆき「エコトピア科学研究所技術補佐員」）

屈つぽく書かれています。本多氏の説く論理についていけたら、自分にもわかりやすい文章なら書けそうだという気分になれます。この本の骨格を中学生向けに編集したのが『中学生からの作文技術』（本多勝一著）です。本多氏の主張を手取り早く、確実に学びたいおとなにもお勧めです。本多氏の『日本語の作文技術』の初版は1976年でした。1960年に出版された『悪文』（岩淵悦太郎編著）も、どうしたら文章がわかりやすくなるか、誤解されなくなるかなど、反面教師としての陥りやすい「悪文」の事例を示しながら、わかりやすい文章の書き方を説いた本です。国語辞典の編集で知られる国語学者9人による共同著作です。

著者は名古屋大学理学部に助教授として一時在籍した経歴があります。『日本語練習帳』（大野晋著）は、似たことばの使い分け、接続助詞の使い方などの文法事項、敬語の使い方など、ときには古語にまで遡って教えてくれます。練習問題を解きながら解説してくれますが、すんなりとは解けません。初版が出たのが1999年。名大生協の招待で北京第二外国

最後に『記者ハンドブック』（共同通信社編著）です。共同通信社は、全国の地方新聞社に記事を配信している通信社で、会社として、記者たちが基準にしている表記の決まりをまとめたものです。小説やエッセイはどのように書いてもよいのですが、新聞や機関誌（紙）の場合には、誰が書いても表記を統一する必要があります。私の本は1985年の5版ですが、現在は11版まで出ているようです。ことは日々変化しているので、新版にする必要があり

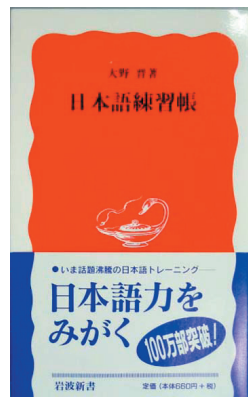
次回 は知的生産の技術・発想法・資料整理法を予定しています。（しばた・としゆき「エコトピア科学研究所技術補佐員」）

屈つぽく書かれています。本多氏の説く論理についていけたら、自分にもわかりやすい文章なら書けそうだという気分になれます。この本の骨格を中学生向けに編集したのが『中学生からの作文技術』（本多勝一著）です。本多氏の主張を手取り早く、確実に学びたいおとなにもお勧めです。本多氏の『日本語の作文技術』の初版は1976年でした。1960年に出版された『悪文』（岩淵悦太郎編著）も、どうしたら文章がわかりやすくなるか、誤解されなくなるかなど、反面教師としての陥りやすい「悪文」の事例を示しながら、わかりやすい文章の書き方を説いた本です。国語辞典の編集で知られる国語学者9人による共同著作です。

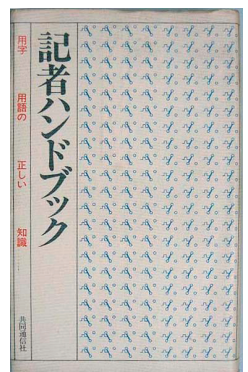
著者は名古屋大学理学部に助教授として一時在籍した経歴があります。『日本語練習帳』（大野晋著）は、似たことばの使い分け、接続助詞の使い方などの文法事項、敬語の使い方など、ときには古語にまで遡って教えてくれます。練習問題を解きながら解説してくれますが、すんなりとは解けません。初版が出たのが1999年。名大生協の招待で北京第二外国

最後に『記者ハンドブック』（共同通信社編著）です。共同通信社は、全国の地方新聞社に記事を配信している通信社で、会社として、記者たちが基準にしている表記の決まりをまとめたものです。小説やエッセイはどのように書いてもよいのですが、新聞や機関誌（紙）の場合には、誰が書いても表記を統一する必要があります。私の本は1985年の5版ですが、現在は11版まで出ているようです。ことは日々変化しているので、新版にする必要があり

次回 は知的生産の技術・発想法・資料整理法を予定しています。（しばた・としゆき「エコトピア科学研究所技術補佐員」）



『日本語練習帳』（大野晋著、1999、岩波新書）



『記者ハンドブック』（共同通信社編著、1956、共同通信社）

ニュースに一喝!!

自分の頭で考える

昨年度ノーベル物理学賞を受賞された益川さん・小林さんのお二人が、名古屋出身で名古屋大学出身だということで、昨年来度タマスコミを賑わしている。昨年来、明るいニュースというのは北京オリンピックのメダリストか、一度に4人も受賞者が出たノーベル賞以外にないような気がする。

受賞された方々にはお暇財な事と思うが、一つ、夢を蒔くのに荷担いたいただきたい。つい、先頃、名古屋市の科学館で子供達70人と交流したということがテレビ・ラジオで報道された。二月十日の中日新聞にも写真入りで報じられている。私の知っているのは、そこで報道された限りのことで、一部始終を知っているわけではない。

小学生から、高校生までが交流会に参加した。色々の感想を聞いた。子供らしい夢を語る子がいた。新聞には、テレビで聞

いたこととは大分違う事が書いてある。この記事を書いた記者の気にとまったことなんだろう。

テレビで益川さんは、大方の発明発見はもう19世紀に済んでしまっていたと思ったがそうじゃなかったというようなことも言っておられたのも自分の頭で考えた結果だったのだろう。

私は、テレビで聞いたお二人の片言隻句の中から、この「自分の頭で考える」ということ、「夢中になれることをやりなさい」ということが最も印象に残った。それと共に、必要なのは、基礎的知識であるということだった。

自分の頭で考えるということとは、へりくつ屋なら、誰の頭で考えるのか、などと言いそうだが、素直に考えて、殊の外大切なことと思う。世の中の様子を见ていると自分の頭で考えず、人の意見の受け売り、先例によって判断する、人がそうやっていくからなどということが余りに

多い。学問の世界でも同様なのは驚くほか無い。寧ろ、自分で種々考えた末、今までと違った考えを出すとは大方は拒否されるか、無視される。新見を提出すべきなのに、今までと違うと言うだけで批判の対象にさえ成る。人の業績を判断するにも、どんな雑誌に載ったというようなことばかりが問題になり、どれに載ったら、何点、査読のない雑誌論文は0点など、自らの判断を停止したような塩梅である。それが全く駄目というわけではないが、それだけに頼るということはやはり自分の頭で考えていない証拠なのだ。

又、生身の体を持つ人が、自らの口で物を言うことよりも、インターネットに載ったことの方に価値を置いたりすることも、

変な話しだがよくあることだ。私が授業中に言っていること、言ったことについての学生の反応にも似たようなことがある。同じようなことが、他の授業でも言われたり、学生が、何か他に読んだ物に同様の考えがあったりすると、途端に私の言葉が価値あるものに見えるようなのだ。私しか言わないことでは駄目なのだ。

ノーベル賞を受賞したような人は、それで世間から評価されるからいいが、同じような人も実は幾らでもいると思う。しかし、ノーベル賞を受賞した人に、「自分の頭で考えよ」と言ってもらうことは大変いいことだ。残念ながら、先に述べた新聞記事には一言半句そのことにはふれていない。(田 2009.2.10記)

また大相撲大麻事件

十両力士若麒麟、幕内で相撲を取ったこともあるという。この力士が、都内のCD店で、乾燥大麻を所持していたかどで一緒にいた仲間とともに逮捕された。昨年も、大麻入りのタバコを持っていたというところで、ロシア出身の若ノ鵬という力士が逮捕され、相撲協会を解雇された。更に、

ドーピング検査で二人のやはりロシア出身の力士が解雇された。大相撲協会は大変な騒ぎになり、理事長も交代して、体勢を立て直そうと躍起になっている最中、初場所が、朝青龍の復活で人気も盛り上がった後だけにショックは大きかった。大相撲協会の理事会で、この若麒麟も解雇処分、

一番重い除名にならなかったことに對して、色々批判があった。一般国民の感想は賛否相半ばすると思うが、NHKは批判的意見しか採用しなかった。この問題を盛んに取り上げて、「ヤクミツル」という人、どういふ方かは知らないが、如何にも忌々しげに怒っていた。相撲協会が、まだ25歳という年齢、将来を考えての処分だったことに關しても、「もう25歳にもなつてと言ふべきだ」と。また、身内に甘いとも言っている。確かに、ものは考え方だ。

昨年来の色々な問題を考えれば、相撲協会も考えるべき事が

中川さん―体調管理

(田 2009.2.3記)

G7後の記者会見、ああ何回も流されると哀れになる。物まねまでされている。ご本人もあのテレビ映像は御覧になつている

だろう。ご本人の心中を思いやれば誠に何とも言えない気持ちだ。こうはいつでも、私自身支持者でも、反対者でもないことを断つておく。政治家の運命かも知れないが、余りに、叩かれ通しで気の毒になるということである。閣僚辞任は仕方あるまい。麻生さんにも痛手だろうが、何よりも日本が大変なダメージを蒙ったことは間違いない。要

多かるう。ただ、どの社会でも同じ事だが、それを構成しているのは一人一人の生身の人間だということである。悪いことをしたのだから切つて捨てるだけで事が済むわけではない。後は知らないと言つて済む問題ではない。若い身空で路頭に迷えば、末路は本人にとつても、社会にとつてもいいことは無からう。確かに本人が悪いことは言うまでもない。それを謝つて反省しているだけまだ救いがある。それをも切つて捨てると言ふのだろうか。影響力のある人は言葉を謹まなければならぬまい。

人は、自己管理、体調管理に十分気をつけなければならぬということなのだ。

もっとも、体調管理ということは、誰にとつても大切なこと、はいうまでもないことだ。私は、体調が悪かつたから休んだとか、風邪で休んだとか言う学生諸君に、些か、乱暴だとは思ふが、よくこう言う。「体調を悪くするのは、あなた自身の責任ですよ」と。こんな事を言っている手前、私自身、風邪を引いたり、体調を悪くして休むなどということとは出来ない。幸い、まだ一度も

そういうことはない、今後も自戒していかなければと思つている。

そして、こういう事は内々で気をつけているだけでなく、みんなに言いふらしている。自慢をしているのではない。何故そうするかと言えば、内々でやつていううちは失敗しても特別恥もかかない、風邪を引いたところで極く普通のことである。ただ、公言しているからには責任がある。体調を悪くしないよう、風邪を引かないよう不断の注意をしなければならぬ。

今、インフルエンザのことが盛んに心配されている。自分自身、いつやられるか分からないが、やはり、自身の健康管理ということが尤も大事だと思う。余り、このことをマスコミなどで強調しないのが、不思議である。(田 2009.2.19記)

無神経

以前から気になつてゐることである。テレビは画面に放送中のこと以外の緊急な情報を文字で知らせてくれる。現にやつてゐる放送を止めてまで、その情報を割り込ませることは余程のことでもない限りはしない。しかし、悲しいかな、ラジオでは、音声多重では聞き取れないから、

仕方なく、今、放送中のものを止めて緊急情報を流す。中には、本当に緊急で、その放送を止めてまで割り込む必要のあるものもあるが、今までにそういう経験は皆無である。

最近たて続けにこんな事があつた。土曜日の夜の、ラジオ文藝館の時間や、日曜の夜の日曜名作座の時間だ。まさに、その次の一語が聞きたいという時に、突然声が消えてしまい、聞いても仕方の無いような緊急情報と称する情報。選挙の結果であるとか、新幹線の不通状態が解消したとかであつた。申し訳ないが、私には、その大事な話の続きを止めるほど重要な情報とは思えなかつた。あと数分待つてくてもいいと思つた。ストツブした放送内容は再現されないから残念に思うほか無い。こういう視聴者が居て切歯扼腕していることをNHKは是非知つていてほしい。

時には、地震の情報もある。これは、関係有る地方にとつては重大な情報であり得る。しかし、遙か離れた地方の震度2とか3とかいふ地震まで、知る必要があるのだろうか。そんなに緊急に。

NHKももう少し視聴者の事に神経を使つて欲しい。

(田2009.2.4記)

ランニングノート (5)

冬はかぜとの戦い

全学技術センター 伊藤 耕

前回の名古屋ハーフマラソンが終わって、次の犬山ハーフマラソンまでの3ヶ月間は普段、次のレースのことを考えて練習計画を考えているときにはできないことをしようと思い、12月、1月は「とにかく時間と体力の許す限り一杯走る」というテーマで、以下のようなスケジュールで練習しました。とはいえ終わってみるともっとできるなあ・・・とも思っています。

しかし、冬といえば風邪の季節。風邪を引いてしまっただけでは練習に支障をきたします。そこでマスク。コレが効果があって、一昨年から使うようになってから風邪を引かなくなり、引いても悪化しないようになりました。まあ軽い風邪なら「走って体温上げて治す!!」って言って走るだけだね。

そしてもう一つの「かぜ」とは風。特に12月31日と、1月31日に三好池で走った時は、なんだか狙ったようにその日だけ？ まっすぐ進めないほどの風でした。とはいえ、風が強いからといってレースがなくなるわけではないし、これも練習だと思って・・・・・・もやっばり嫌なものは嫌ですね。

① 12月

- 東山1万歩コースで120分 jog
- 三好池で27km 走
- 180分 jog+walk

という3パターンをポイント練習として、補強、休息を取り混ぜながら「朝、夕」、「昼、夕」など1日2回走れるときは2回走るように心がけるようにして練習しました。

しかしながら、12月といえば忘年会シーズン。なかなか夕方練習ができず、当初の予定では名古屋～東京(330km)を目指したものの結局横浜で時間切れとなってしまいました。

② 1月

- 三好池で27km 走
 - 山の上グラウンドで12000m(48~49分)、6000m(23分前後)
 - 山の上グラウンドで4000m(15分前後)+1000m(全力)
- という3パターンをポイント練習として練習し

ました。1月は、2/22に犬山ハーフマラソンにエントリーしたので少しずつ速い練習も取り入れようかな。と思っていたところ、思った以上のペースで走れるようになっていてちょっとウキウキです。犬山ハーフマラソンは80分切りを狙って19' 00/5kmで行ってみようかな。とは思ったものの、現在の力では少し厳しい目標でした。(次回のかげはしをお楽しみに)

③ 1月11日

1月11日に30代初レースとなる新日本スポーツ連盟東海ブロック第31回新春マラソン10kmの部に出場しました。最近では10km(10000m含む)のレースに出ていなかったため、10kmレースを走るのは3年前の名古屋シティマラソン以来でした。そのため、自己ベストは不明。40分はきいていないという程度しか覚えていませんでした。結果は38分55秒。37分台を狙っていたため結果はやや不満でしたが、自己ベストだからまあ良いか・・・・・・

④ 1月25日(三好駅伝)2区(4.3km、5分55秒、区間順位35位、チーム順位30位)

一昨年出場した時も同じ区間を走り、16分50秒だったので、一昨年より1分近くタイムをつめることができました。ゴール後にはお汁粉か豚汁が1人1杯振舞われるのですが、どうも結構残っているらしい・・・・・・。ということでお汁粉1杯と豚汁2杯いただきました。1区を走ったY君は頑張った？ 豚汁を4杯食べていましたね。エントリー料をちょっとだけ多めに取戻した気分でした。



今号は短いまとめの内容としましたが、次号以降もよろしくお付き合いください

名大生協



「かけはし」編集委員会行

山 折 り

○氏 名 _____ 組合員証番号 _____

○所 属 _____ 研究科
学部
センター _____ 専攻・課
学科・掛 (教職員・院生)

○連絡先 _____ 内線 _____

○誌上匿名希望の方はペンネーム _____

山 折 り

_____ アンケートに _____
_____ ご協力願います。 _____

第 282 号

クイズのこたえ _____

☆今月号を読んでの感想

☆記事にしてほしいこと。生協へのご意見やみなさんからの通信をぜひ。

COOP クイズへの応募、アンケートの回答は、<http://kyoshoku.coop.nagoya-u.ac.jp/kakehashi/answer.html> から送信できます。また、e-mail: kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp でも受け付けます。必要事項をもれなく記入してください。

1・2月号 の感想

戦争について考えることが大事

★「早咲きの花」の紹介のところに、「名古屋大学の敷地にも戦争の傷跡を残すところがある」と書いてあるのを見て、驚きました。戦争のことは決して忘れてはならず、こういうイベントを通して、戦争について考えることが大事だと思います。【リナ】

もって自己防衛の意識を

★日本も少し前のアメリカ社会のように貧富の差が激しい国になってきたなと感じます。良いか悪いかは様々な意見がありますが、もつと一人一人が自分の身の安全や危機感に感心と自己防衛の意識をもたないといけない時代がきたんじゃないかと思っています。【BOB】

いつも助けられています

★あけましておめでとうございます。学食や購買等、生協にはいつも助けられております。本年も活動を応援しています。【ミリー号】

マラソンは一種のドラマ

★「ランニングノート」を読みました。昔から長距離走はただただしんどいだけで、競技として続けている人にはどのような楽しみがあるのかよく理解できませんでした。しかし読んでみると、長距離やマラソンは一種のドラマであるような気がしてきました。高校生のとき強歩大会（実質ハーフマラソン）が嫌で嫌で仕方なかったのですが、きつと参加する姿勢を変えるだけで楽しめたのかなあ、とも思いました。【みなてい】

ケイタイがなかったときは

★携帯電話がなかった時はどうやって待ち合わせていたのでしょうか。もうかなり昔の思い出となりました。そのときは不便と思わなかったのですが、不思議ですね。【安井幹夫】

ケイタイは子どもに必要な

★『魔言』をいつも興味深く拝読させていただいております。今回の携帯電話の記事に、強く同意しました。携帯電話は、大人も電話機能のみでその他の機能は必要ないと思います。当然ながら、20歳未満の子供には一切必要ありません。【SKE48】

月に帰ったカグヤヒメ？

★竹を利用するゾウムシの「カグヤヒメキクイゾウムシ」の話、なんとも劇的なエピソードですね。筆者の井上さんには申し訳ないのですが、このまま見つからないのもまた良いですね。【玉木一郎】

景気対策には役立たない

★天下の愚策ー定額給付金ーのコラムがありました。私も全く同感です。「米百俵」の話を踏まえなければ、景気対策には役立たないと思います。【JJ】

押し通す意義はあるのか

★ニュースに一喝！の定額給付金について。これだけ反対意見が多いのに、押し通す意義はあるのでしょうか。発言に責任を持ってやり遂げることも大切ですが、この激動の社会の中、臨機応変に考えることももつと大切だと思います。ちなみに私の友達も区役所の定額給付金担当になったらしいですが、政府に丸投げされた状態で毎日残業続きだとか。それに付随する人件費等も無視することはできないな、と感じました。もつと国民の意見に耳を傾けてほしいと切に願う今日この頃です。【ちよこ】

意見と

通信

クイズに当たる気がしない

★クイズには何度か応募しました。でもぜんぜん図書カードが当たる気配がしません。僕だけでしょっかつコツかなんかあれば教えてください。【みなてい】

最近クイズが簡単

★最近、クイズが簡単になったと思います。ヒントから容易に推測できるので、必要ないと思います。【SKE48】

ドレッシングの数が多すぎる

★学食はドレッシングの数が多いのびつくりしました。パスタなどのメニューがあると嬉しいですが、（別の所に行くところのかもしれない）【リナ】

花粉症対策の特集を

★毎年、私を悩ませる花粉症の時期が近づいてきました。花粉症対策の特集はいかがでしょう。【JJ】

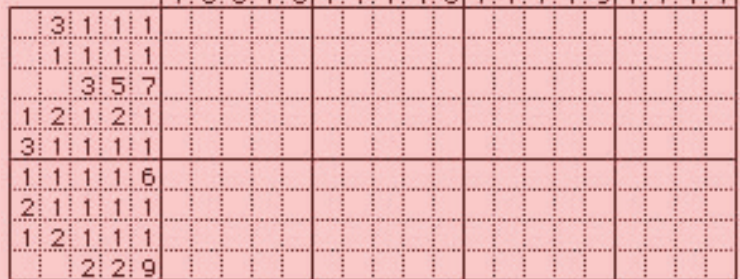
研究室紹介を

★先月の意見にも記載されましたが、研究室紹介をしてほしいです。【ミリー号】

CO-OP QUIZ

No. 282
2009 月 3 月 号

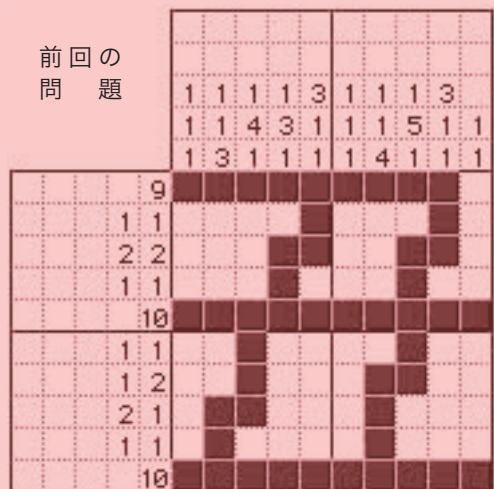
縦と横に書かれた数字にしたがってマスをうめていくと絵（または文字）が現れます。それは何でしょう。
(ヒント=3月)



クイズが解けたらぜひ応募してください。クイズの嫌いな方は、ご意見だけでも歓迎します。

前回の正解は「丑」でした。解き方がまだわからない方は、解答の絵の数字と黒マスの関係をよく見てください。

前回の
問題



あなたも Logic の問題を創作（出題）してみませんか。問題の投稿も歓迎します。手描きでも OK。
採用の方には図書カードを進呈。

応募要項

- 締め切りは 4 月 17 日
- 発表は本誌、5・6 月号
- 正解者（但し、①組合員
②当選後ご加入も可、③意見・感想記入者）の中から、抽選で 5 人の方に図書カードをさしあげます。
- 生協への意見・要望をどしどしお寄せ下さい。

第 281 号の当選者

- ・応募総数 …… 10 人
 - ・正解者数 …… 10 人
 - ・当選者（敬称略）
 - 安井 幸夫（理学研究科）
 - 安藤 元良（工学部）
 - 入江 将嗣（工学研究科）
 - 安井 幹夫（農学部）
 - 浅井 陽子（情報推進部）
- 以上の 5 人の方に図書カードをお送りします。